



希望が丘

教育目標 「 自律 尊重 創造 」

《第6号》

上越市立名立中学校

電話 025-537-2204

Fax 025-537-2214

(令和3年12月22日発行)

＜特集＞ 名立中学校 人権教育、同和教育の取組

名立中学校では、「自ら仲間とかかわり、差別やいじめを許さない心の育成」を目標に設定し、自分も相手も尊重できる生徒になってほしい、そう願って人権教育、同和教育に取り組んでいます。その具体的な取組の一つに「部落問題学習を中核とした人権学習の実施」があり、10月から11月にかけて人権強調月間、同和教育強化月間を設定して全校で取り組んできました。2学期に行った取組を紹介します。

11月9日(火) 全校朝会

名立中学校は今年度より教育目標を「自律 尊重 創造」として、各種の教育活動に取り組んでいます。この日の全校朝会では、人権強調月間の取組に関連し、「尊重」についての校長講話がありました。人権についての基本的な考え方や、この日から始まる取組を通して考え、深めてもらいたい内容について、フリップを使って説明しました。特に強調したのは以下の4点です。

- 違いを理解し認め合うこと
- 自分がしてほしいことを他人にしてはいけないこと
- 相手を尊重すれば、自分の個性が磨かれること
- 人を尊敬できる人は、人からも尊敬されること

ここを出発点として、一連の学習が本格的に始まりました。



11月9日(火) 認知症サポーター養成講座(1年生)

1年生の総合的な学習の時間に、上越市社会福祉協議会名立支所の方からおいいただき、認知症サポーター養成講座の授業をしていただきました。超高齢化社会を迎えた日本では、だれでも認知症になる可能性があります。自分の周りの人が認知症になったとき、どのように接したら良いかを知ることが大切です。また自分も歳を取り、認知症になる可能性があることを考えると、自分自身のためにも認知症について正しい知識をもつことが必要です。1時間の授業の中で、3名の方からたくさんのお話をいただきました。認知症とはどのようなものか、どのような症状があるか、どのような接し方が必要か、介護する家族の気持ちはどうかなど、映像も交えてお話ししていただきました。最後に挙げていただいた、特に大切なことは、

- 認知症は本人もとてもつらい思いをしているということを理解する
- 家族で抱え込まず、総合事務所など公的な機関に相談をする

ということでした。

周りの人を尊重することは、自分が尊重されることにつながります。単に認知症について知るというだけでなく、人権教育の視点からも大切な学習でした。



＜生徒の感想＞ 認知症サポーター養成を受講して

家の祖母は言われたことを忘れたり、同じことを繰り返したり、父に八つ当たりをしたりすることがあります。先日も祖母と父がけんかになり、つらい気持ちになりました。

そんな時に、認知症サポーター養成講座の学習がありました。始めは祖母のことが頭をよぎり、いろいろな出来事の記憶が蘇ってきて嫌でした。しかし、今後の家での生活に活かせることがあるかもしれないと考え、集中して話を聞きました。

認知症にはいろいろな症状があつて、どのようなあられ方をするのか学ぶことができました。また、どのように介護やサポートをすればよいか考えることもでき、とても良かったと思いました。今では学習する前より、やさしく祖母に接することができるようになったと思います。もちろん今でも、大変なこと、嫌になってしまうことがたくさんありますが、気持ちに何かゆとりがあるのか、全然違った感じになりました。学習して良かったです。

11月19日(金) 高齢者・視覚障がい者体験、介助体験（全校生徒）

この日の5・6限に、全校で高齢者・視覚障がい者の体験とその介助の体験を行いました。この日も上越市社会福祉協議会の方からおいでいただき、用意していただいた高齢者と視覚障がい者の体験セットを使って活動を行いました。

体験は、12の絆班に分かれて行いました。高齢者体験では、視野を狭くするためのゴーグルや聴覚を低下させるためのヘッドホン、触覚を鈍くさせるための手袋、関節の動きを制限するためのひざ当てや、動作を重くするためのおもりなどを着けて体育館や、校内を歩きました。体験セットを着けることで、ふだん運動の得意な生徒も、お年寄りの方が年齢とともに動きづらくなっていくことを体感しました。

視覚障がいの体験ではアイマスクをして白杖を持ち、体育館に並べられた点字ブロックの模型の上を歩いたり、友達に介添えをしてもらいながら校舎を回ったりしました。体験した生徒は、ふだん歩き慣れている廊下や階段がとても歩きづらく、特に下りの階段が怖く不安に感じることを実感していました。

介助の生徒は、相手にひじをつかんでもらい、半歩先を歩くことを意識すること、途中でこまめに声を掛けて状況を知らせること、危険な箇所の前で必ず立ち止まることなど、介助の基本を教えてもらい、実践して、できるだけ相手が不安な気持ちにならないように心がけていました。

体験後、班ごとに振り返りを行って今日の体験の感想をお互いに話し合い、全体でも代表生徒が発表しました。みんな、高齢者の大変さや視覚障がいの不便さ、そしてその介助にあたる人がどんな配慮をしているか感じ取り、自分ごととして感想を述べることができ、大変有意義な学習となりました。相手を思いやり、尊重しようとする気持ちが強くなったと感じられた活動でした。



11月24日(水) P T A 講演会 (全校生徒、保護者)

P T A厚生部の主催で、新潟お笑い集団 NAMARA の森下英矢先生を講師にお迎えして講演会が行われました。森下先生はお笑いのほか、アルビレックス新潟のスタジアム MC や、企業の CM でも活躍されています。この日は「みんな違って みんな面白い」というテーマで、日々の生活の中にある「人権」についてお話しいただきました。

最初に「人権とは人を認めること」と話された上で、YouTube の動画の評価や、いす取りゲーム、ご自身のお子様についてなど多岐にわたるお話をいただきました。その中で、「どんなことにも文句は言えるが、逆に考えればほめることもできる」ということから、自分も相手も認めてほめることや、人に興味をもつことの大切さについてお話しされ、また「人権を守らないといけないという考えは大事だけれど、それ以前に、人としてもっと自然に優さを発揮したり、困っている人を助けたりできることが大切だと思う」など、明るい話し方で考えさせられる内容をいくつも話してくださいました。

<生徒の感想>

今日の講演で認め合うということと、間違うということを学びました。私は授業のときに、分かった！と思った問題でも、間違っていたらどうしよう…と思いながらなかなか手を挙げることができませんでした。間違ってもいいというのはよく聞くことはあるけれど勇気が出ません。でも、間違うことで場が和むと考えると、とてもポジティブに手を挙げるができるなと思いました。(3年女子)



11月26日(金) 「あすチャレ! スクール」車いすバスケットボール体験・講演会 (潮陵中・名立中合同 全校生徒)

この日の2・3限、名立中学校体育館を会場として、潮陵中学校と合同で、「あすチャレ! スクール」車いすバスケットボール体験・講演会を開催しました。講師はあすチャレ! スクールの神保康広先生です。神保先生は16歳のときにバイク事故で脊椎を損傷し、車いす生活が始まりました。1988年に熱心な友人に誘われて車いすバスケットボールを始めました。「千葉ホークス」で鍛えた技と心を携え、1992年のバルセロナから2004年のアテネまで4回のパラリンピックに出場されました。英国代表チームのサポートスタッフとしても活躍されました。2017年に日本財団パラリンピックサポートセンター「あすチャレ! スクール」の講師に就任され、全国で講演をされています。

講演では、始めにデモンストレーションとして、巧みな車いす操作とスリーポイントシュートを見せてくださいました。次に潮陵中と名立中の学校対抗戦を行いました。女子選抜、男子選抜、職員選抜の3チームが5分間ずつのミニゲームを行いました。結果は、総得点数で潮陵中の勝ちでした。

最後に神保先生から、ご自身の体験に基づいたお話がありました。事故のあと1年半にわたって引きこもったこと、仲間のおかげで夢をもったこと、さらにそれを叶えることができたことなどを、スライドを交えながらお話しになりました。今回の講演を通して、講演の中で神保先生が教えてくださった「4つの学び」を意識して、一人一人がこれからの学校生活を充実させていこうという決意をもつことができました。

- 他者のことを自分事として考える心
- 障がいとは何か?を考える心
- 可能性に挑戦する勇氣
- 「夢」や「目標」をもつ力



＜生徒の感想＞

今回の体験は、1年生の時から数えて3回目になりました。1年生の時は、車いすの操作が難しかったという思いしかありませんでした。去年は車いすを使って生活をしている方たちにとって、いろいろな方向にスムーズに動いたり回転したりして、競技用車いすが「運動に適した、無くてはならないもの」であることを実感しました。

そして今年、パラリンピックにも出場された方が来てくださいました。車いすバスケットボールのデモンストレーションを見せていただき、事故で大きなけがをし、元には戻れない現実にもぶつかっても、自分の夢を見つけ、必死に夢を叶えたというお話を伺いました。「事故→障がい→かわいそう」そんなイメージをもっていました。座った高さでバスケットのゴールを決める腕の力の強さや車いす操作の機敏さを見て、「かつこいいなあ」と素直に思いました。事故の後、友だちの力や夢を見つけたことで、ひきこもっていた生活から一歩踏み出した経験のお話は、私の中にも大きな勇気が沸き上がりました。(3年女子)



11月26日(金) 同和教育講演会

(谷浜小・宝田小・潮陵中・名立中合同 中学校全校生徒、小学校5・6年生)

この日の午後、潮陵中学校、谷浜小学校、宝田小学校と合同で、名立中学校体育館で「同和教育講演会」を開催しました。講師は昨年度に引き続き、徳島県人権エンタメ集団「友輝」リーダー、徳島県同和地区青少年団体連絡協議会「止揚の会」事務局の中倉茂樹先生です。中倉先生はご自身が小学生のとき、6年間激しいいじめにあっていました。高校3年生のとき、周囲に支えられて人権集会で部落民宣言を行い、仲間から励まされて「人間って温かいなあ」と感謝したそうです。

講演では、まず始めに男女差別の現実を、生徒へのインタビューを通してお話しになりました。さらに、ご自身が結婚差別事象を体験したこと、奥様と強い意志を持ち続けて結婚されたこと、初孫をご両親に見せに帰省したときに、ご両親の心が変わったことなどを語ってくださいました。特に心に残っているのは、

- 人権学習、同和教育は、皆が幸せになるための勉強
- 最悪のいじめは「無視」をすること
- 親にとっての幸せは、子どもが幸せになること

という言葉です。中倉先生のご家族のスライドを見て、強く生きることの大切さを学びました。



＜生徒の感想＞ 中倉さんの講演を聴いて感じたこと

- ・中倉さんの人生はきっと全て完璧じゃなかったと思います。だからこそ一言一言ににとっても思いが感じられました。だから中倉さんはとっても優しい人だと思いました。(1年男子)
- ・たくさんの仲間がくれるほど中倉さんは素晴らしい方なのに無知による差別があるなんて悲しいなと思いました。つらい差別は思い出したくもないだろうに、僕たちのために進んで人権の話をしてくださる中倉さんは心の強い方だなと思いました。(2年男子)
- ・中倉さんの情熱の源は妻や子供、励ましてくれた仲間だと思います。支えてくれる仲間、守りたい人がいるからこそ、差別をなくそうと活動ができると考えました。このような差別があると知らない無知が、結婚差別を引き起こしていると思います。そのせいで周りから間違った話をすり込まれ、部落だから、障がい者だからとの理由で差別されてしまうのだと思います。(3年女子)



11月30日(火) 絆スクール集会 ～いじめ防止・見逃しゼロの取組～

(宝田小・名立中合同 中学校全校生徒、宝田小5・6年生)

11月30日(火)の午後、宝田小学校の5・6年生を迎えて、名立中学校体育館で「絆集会」(いじめ防止・見逃しゼロスクール集会)を行いました。目的は次の2つです。

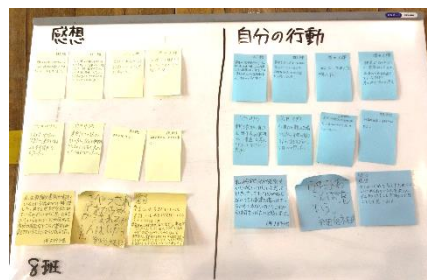
○ いじめを防止し、いじめを見逃さない気持ちを高める

○ 児童生徒の絆を深め、社会性を育成し、中一ギャップを解消する

はじめに名立中学生徒会長があいさつの中で、絆集会を11月に開催する意義を述べました。場を和やかにするためのアイスブレイクでは、宝田小6年生が「イントロクイズ」、名立中1年生は「ダイナマイト・ワード・ゲーム」を行いました。

メインとなるグループワークでは、11月26日の中倉茂樹さんの講演会で心に残ったことと、これからの行動の仕方について、あらかじめ付箋に書いてきたことをグループ内で順番に発表しました。さらに、いじめを見逃さないために取り組みたいことについて、意見を交換しました。

最後に、名立中学生徒会副会長が、「今日の集会で学んだことを生かして、お互いに尊重の心をもって学校生活を送りましょう。」と閉会のあいさつを述べました。この会を通して、小学生と中学生の絆を深め、いじめをしない、させない、許さないという決意を固めることができました。



<絆スクール集会を通して考えたこと> これからの自分の行動

- ・差別やいじめをなくすために、クラスの中での活動を増やすことや、「～だ」などと決めつけないように気を付ける。他人事のような考え方ではなく、自分ごととして考えるよう心がける。(1年男子)
- ・私は差別やいじめをなくすために、自分の中にあるバイアス(先入観)を壊していくのが大切だと思います。時々クラスの中で言葉づかいが悪いところを見かけるので、何を話していいかや、何を話してはいけないかを、自分で考えて話していきたいなと思いました。(2年女子)
- ・差別やいじめを受けている人がいたとき、中倉さんの仲間のように応援したり、励ましたりし、支えられるような行動をしていきたいと思いました。差別を起こさないために、コミュニケーションを取り、相手を知ることが必要だと思いました。(3年女子)

宝田小・名立中「いじめ防止・見逃しゼロ宣言」

宝田小と名立中には共通の「いじめ防止・見逃しゼロ宣言」があります。今回のスクール集会では時間の関係で、全体で唱和することはできませんでしたが、改めてここに掲載します。1か月にわたり、人権教育、同和教育の取組を行い、考えを深めてきました。今回の一連の取組で感じたこと、考えたことを常に心の中にもちながら、みんなが学校生活を気持ちよく過ごせるように、普段の学校生活の中でこの宣言の内容を実践してほしいと思います。

宝田小・名立中「いじめ防止・見逃しゼロ宣言」

- 私たちは、相手の気持ちを考えて、お互いに思いやりのある行動をします
- 私たちは、誰とでも声をかけ合い、助け合います

＜速報＞令和4年度生徒会役員選挙結果

12月14日(火)、令和4年度の生徒会役員を決める選挙が行われ、次年度の生徒会三役が決定しました。生徒会長、副会長は次の3名です。これから生徒会総務、専門委員長等の選考を行い、新生徒会の組織作りを行っていきます。詳しくは次号で改めて紹介します。

令和4年度	生徒会長	2年男子
	副会長男子	2年
	副会長女子	2年



2年ぶりの音楽祭 響け歌声! ～コロナに負けない58人の心よ届け!～

10月22日(金)の午後、2年ぶりに校内音楽祭を開催しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、無観客で、マスクを付けたままの合唱でした。各学級で練習を始めたのは10月11日でしたが、練習に情報端末を活用するなど工夫したこともあり、わずか10日間あまりで見違えるほどにレベルが上がりました。披露した曲は、次の通りです。

全員合唱の部：名立中学校校歌、生徒会歌

学年合唱の部：1年生「君をのせて」

2年生「花は咲く」

3年生「COSMOS」

どの学年も、歌詞の意味を深く考えて、心を込めて丁寧に歌っていました。3年生はこれで中学校の音楽祭は最後でしたが、1・2年生にハーモニーの美しさのお手本を見せることができました。実行委員長はじめ音楽祭実行委員も、練習、そして本番の運営に尽力しました。今回は初の試みとして、動画での配信を行うことができました。配信にあたっては、上越教育大の大学院生の方からもご協力いただき、スムーズに配信することができました。



保護者の皆様、無観客の開催で申し訳ありませんでした。来年度は是非、保護者の皆様、地域の方々も含め、多くの観客の前で生の合唱を披露できることを願っています。

思い出となった修学旅行

10月28日(木)・29日(金)は3年生の修学旅行でした。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初の予定から半年間延期し、行く先も佐渡に変更しての実施となりました。2日間ではありましたが、多くの見学先を回り、体験活動を行いました。主な訪問先は次の通りです。

＜1日目＞

名立中（出発式）－直江津港－小木港－佐和田海岸（記念撮影）－佐渡奉行所－佐渡金山（昼食、世界遺産コース周遊）－無名異焼窯元（陶芸体験）－しいざき温泉「ホテルきらく」

＜2日目＞

ホテルトキの森公園－西三川ゴールドパーク（砂金採り体験）－太鼓体験交流館「たたこう館」－小木港（昼食、たらい船体験）－直江津港－名立中（解散式）

夕方、バスで、名立中学校に到着しました。一泊二日の小旅行でしたが、戻ってきた三年生は少し大人に見えました。良い経験、良い思い出になった2日間でした。



第3回地域貢献活動

11月10日(水)、今年度第3回目の地域貢献活動を行いました。今回の活動は二つです。一つは、冬の閉園を迎えたシーサイドパークで、来年のためにアスレチックのコースの荒れた部分に土を入れる整備作業、もう一つは、プランターに花の苗を植え、名立区内の事業所に届ける活動です。天候も心配されましたが、やや風は強かったものの、作業には支障なく、無事活動を行うことができました。

シーサイドパークには7つの班が行きました。マイクロバスで登ったシーサイドパークは、紅葉から枯れ葉に変わり、秋の深まりを感じました。トラックで広場に運んでもらった土をみんなで土のう袋に詰め、袋を持って階段を上がっては土の少ないところにまいて踏み固めました。一度に2つも3つも土のう袋を持って上がる人、土をひたすら踏み固める人、袋に土を詰め続ける人と、それぞれが一生懸命働きました。

プランター担当の5つの班は、土を混ぜてプランターに入れ、花を植えるところから作業を始めました。花植えが終わった後で、5つの事業所に1班ずつプランターを届けに行きました。訪問先の事業所であいさつする場面では、ちょっと恥ずかしそうな様子も見られましたが、そこは名立中の代表として役割を果たすことができました。花を植えたプランターを渡した後は、入れ替えで以前届けたプランターを回収し、学校に戻って卒業式用の花を新たに植えました。3月にはまた、きれいな花が見られることでしょう。

今年度、新型コロナウイルス感染症の対応のため、地域貢献活動は例年と違う活動を取り入れてきました。試行錯誤しているところもありますが、生徒はみんな、がんばっています。今年度の地域貢献活動は一区切りになりましたが、地域のみなさんとのつながりを大切にした教育活動を今後も展開していきます。よろしくお願いいたします。



少林寺拳法学習を行いました

11月8日(月)～12日(金)にかけて、各学年とも3時間にわたる「少林寺拳法学習」を行いました。中学校の保健体育科で必修になった武道の授業の一環です。これには、県スポーツ協会、県スポーツ少年団副本部長の池藤仁市先生からお越しいただき、講師を務めていただきました。

第1回目は、池藤先生の自己紹介のあと、武道の種類、「武」の本質、少林寺拳法の歴史をお話いただき、安座、正座の座り方、立ち方、合掌礼などの基本所作を教えていただき、実際に行ってみました。

第2回目では、初回の確認と併せて基本練習、相対練習へと進み、最終回ではこれまで学習したことを形にして表すということで、2班ずつグループになり、習った型を順番に披露しました。

授業が終わって池藤先生とお話をしたときに、「生徒のみなさんの参加態度が大変素晴らしく、3日間気持ちよく授業をすることができました」と、大変うれしいお褒めの言葉をいただきました。これは生徒の学習意欲に加え、池藤先生が入念に準備をして、工夫して教えてくださった授業のおかげです。授業開始の1時間以上前から体育館で準備をされ、ホワイトボードにわかりやすく内容を書き、様々なグッズを並べ、リズムをつかみやすいように音楽を流しながら、明るく授業を進めてくださいました。池藤先生、3日間大変お世話になりました。楽しい授業をありがとうございました。



Hello! J.先生着任

11月11日から、隔週の木曜日に新しいALTのJ.先生が来てくださることになりました。先生はオーストラリアから来られました。ベース校は直江津東中学校です。なんと、英語だけでなく中国語も話せるそうです！新型コロナウイルスの影響で、しばらく新しいALTの先生から来ていただくことができませんでしたが、これからは一緒に英語の勉強をすることができます。たくさんお話をし、英語の力を伸ばしていきましょう。先生、よろしくお願いいたします。

皆さん、初めまして。私はオーストラリアからの新しいALTです。今日から名立中学校にお世話になることになりました。私の両親は中国出身ですが、私はオーストラリアで生まれました。英語を担当しますが、中国語を話せます。趣味はスポーツや音楽やゲームなど色々あるので、私に質問があったり、もしくは単純に雑談したりしたい人がいたら、ぜひ声を掛けてください。これから皆さんと仲良くやっていきたいと思います。よろしくお願いいたします。



子ども服回収へのご協力 ありがとうございます

保護者の皆様、「子ども服を世界の難民の方に届ける活動」にご協力いただきありがとうございました。これは6月に行った「服の力プロジェクト」の講演会と連動した活動で、SDGs12番目の目標「つくる責任 つかう責任」に関わるものです。着なくなった子ども服のリサイクルやリユースを推進し、ゴミとして処分される衣服を減らし、エコにつなげようという活動でした。講演会のお話をもとに、「中学生の私たちにできること」を考えて保護者の皆様に呼びかけを行い、11月20日(土)～23日(火)の4日間子ども服の回収を行わせていただきました。特に最終日となった23日(火)は、1日で最初の3日分を超える枚数の子ども服を提供していただき、全体では大型のダンボール10箱、186kgの子ども服が集まりました。集まった子ども服は29日に発送させていただきました。本当に多くの皆様からご協力をいただきました。誠にありがとうございました。



冬休みに入ります ～今学期もありがとうございました～

12月7日(火)～9日(木)の3日間、学期末の個別面談(期末PTA)を行いました。お忙しい中、中学校に足をお運びいただきありがとうございました。また、学校評価アンケートにもご協力いただき、心より感謝申し上げます。もしお子様や学校の様子等について気になることがございましたら、いつでもご連絡ください。



学校は12月25日(土)から1月6日(木)まで、13日間の冬休み期間に入ります。12月29日(水)から1月3日(月)の期間は学校無人化となります。万が一、緊急の連絡が必要な場合は生徒に配布する「冬休みの生活について」にある連絡先をお願いいたします。ご家族ともに健康にお過ごしいただき、新学期、また全校生徒の元気な顔が見られることを楽しみにしています。